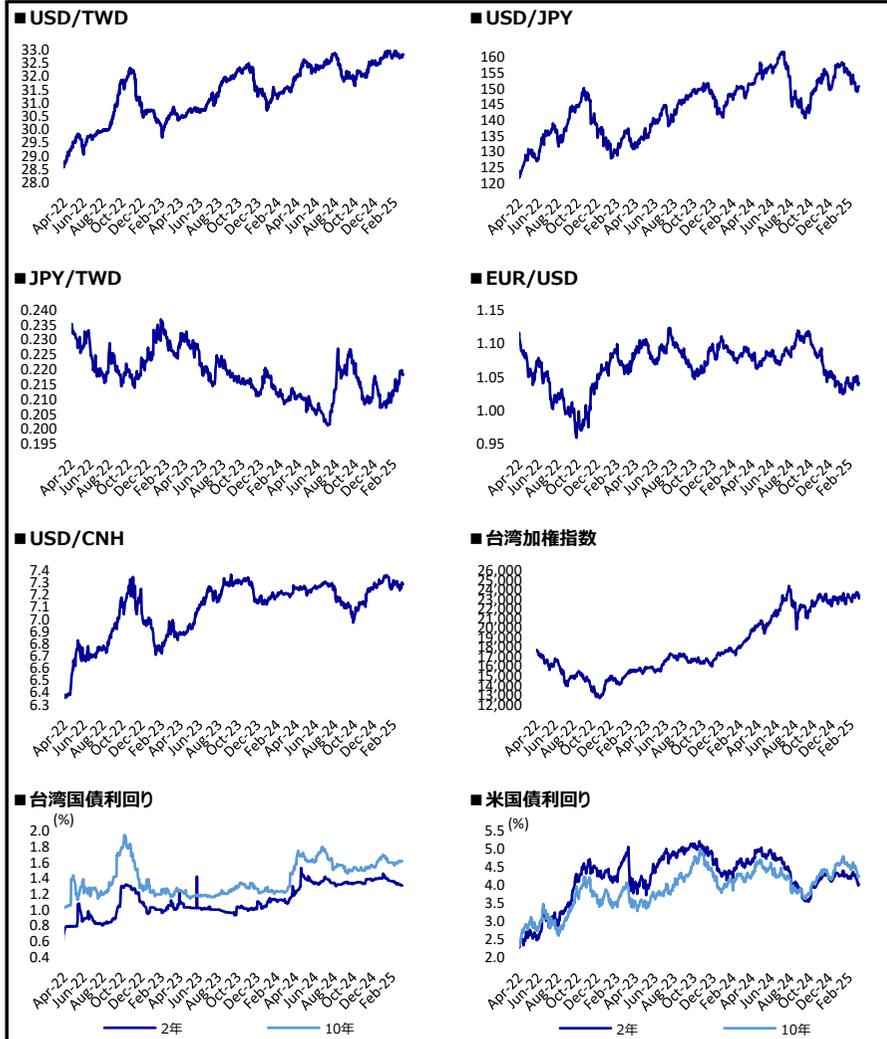


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初2/24は32.745でオープン後、米景気減速の懸念でドル安圧力が高まったものの、軟調な台湾株が台湾ドルの上値を抑えた格好。2/25、台湾株の下落に伴うドル買いが先行し、一時32.80価格台まで上昇。しかし、高値では輸出企業によるドル売りが入り、ドルの上値を抑えた格好。2/26は、輸出企業による月末のドル売りに抑えられ、ドルは上値重い展開となったものの、午後は海外市場におけるドル高で、小幅ながら値を戻した。2/27は、台湾株の下落に伴うドル買いが加速し、一時32.858まで上昇。その後は、輸出企業によるドル売りで上値が抑えられた格好。2/28、台湾休場。最終的には前週比0.23%ドル高台湾ドル安の32.820で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は1197.7億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初2/24は149.35でオープン後、東京市場が休場となったため、概ねレンジ推移。欧米時間では、全般的なドル買い戻しを受けて149円台後半まで緩やかに上昇。2/25は、米2月消費者信頼感市場予想を下回ったため、米債利回りの急落とともに円買いが加速し、ドルは一時148円半ばまで下落。2/26は、米金利上昇を背景にドルは一旦149円台半ばまで回復したが、米経済指標の低調が続く中、米債利回りは一段と低下し、ドルは一時148円台後半まで下落。2/27は、トランプ政権による貿易政策への懸念から、米長期金利の上昇に伴い、アジア時間からドル買いが強まり、ドル/円は149円台前半でレンジ推移。2/28は、週末では米株が引けにかけて大きく反発するなど、市場の心理悪化には歯止めが掛かったことに加え、月末フローもドル買いに傾いていたと見られ、ドル/円は150円台後半まで上昇。最終的には前週比0.87%ドル高円安の150.63で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：32.750-33.150
今週のドル/台湾ドルは上昇を見込む。決裂となったウクライナ停戦協議、カナダやメキシコに対する米関税の発動期限など、相場を動かす材料が混在する中、ドルの下値余地は限定的になる見通しだ。

■ USD/JPY 予想レンジ：147.50-152.50
今週のドル/円はレンジ推移を見込む。トランプ政権による関税政策や国際情勢の先行きに対する不透明感が強く、揉み合いの推移となるだろう。

今週の予定

3/3 (MON)	中国2月Caixin製造業PMI、米2月ISM製造業景況指数
3/4 (TUE)	トランプ米大統領が米議会で演説、米政府がカナダ・メキシコからの輸入品に対し25%の関税発動予定
3/5 (WED)	中国全国人民代表大会開幕、米2月ADP雇用統計、米2月ISM非製造業景況指数
3/6 (THU)	ECB定例理事会、米1月貿易収支
3/7 (FRI)	米2月雇用統計、台湾2月CPI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。